



## 事始め

筆者作成のツールに DocStarterCS というものがあります。これはタイミングを取りながらあらかじめ指定されているドキュメントを順次開いていくツールです。その手段の一つとして前列に指定されたドキュメント(プログラムを含む)が終了したのを確認(起動した側のプログラムに終了信号が戻ります)して次列の指定ドキュメントを開くというロジックがあります。

しかし、前列指定のドキュメントが常駐プログラムの場合、理屈的には終了信号が戻らないことにはなるはずですが(これでも充分困ります)、Windows の処理の中で常駐プログラムは即、戻るような機構になっているようです。

そのため、前列指定のドキュメントが終了するまで待つという指定は、待たずに即、次のドキュメントが起動されるという事態になっています。常駐プログラムと非常駐プログラムの区別がつけばまだ混乱は少ないのですが、非常駐プログラムだと思っていたプログラムが実は起動時間を短縮する為に常駐プログラムになっているというものも少なくないようです。マイクロソフトの Explorer も常駐プログラムなので指定されたドキュメントがフォルダの場合も同一の症状があらわれます。

この件に対して私の技術では解決策が見当たりませんので、次善の策として次列のドキュメントの間にタイミング調整用のプログラムを起動することによりある程度の改善を図りました。

また、ディレイの機能自体は DocStarterCS にも持っていますが、待ち時間の設定を指定ドキュメント間で指定するので TmDelayCS を使ったほうが混乱が少ないかとも思います。

この取扱説明書の最後に DocStarterCS での設定例を記載しておりますので参考にしてください。

## インストール方法

TmDelayCS.exe は DocStarterCS の Ver1.03.0 以降に付属しています。したがってインストールは DocStarterCS がインストール、またはバージョンアップされる際に DocStarterCS と同一フォルダにインストールされます。(標準インストール)

動作自体は TmDelayCS.exe のファイルのみで、単独で動作します。

### >>バージョンアップ

標準インストールされている場合、必要に応じて DocStarterCS のバージョンアップ時に行われます。

### >>アンインストール

標準インストールされている場合、DocStarterCS のアンインストール時に同時に削除されます。

### >>動作環境

DocStarterCS の動作環境と同一です。

日本語版 WindowsXP(32bit) + .NET Framework 2.0

日本語版 WindowsVista/7(32bit)

## メイン画面



起動されると、終了するまでの残り秒数がカウントダウンされる状態で表示されます。指定のカウントは、起動書式で起動時に設定されます。この設定がなされていないと一旦起動はされますがプログラムはすぐに終了します。

### [一時停止]

カウントダウンを一時的に停止します。再度のクリックで再開します。

### [キャンセル]

カウントダウンを無視してプログラムを終了させます。

### [強制終了]

キャンセル同様にカウントダウンを無視してプログラムを終了させます。キャンセルとの違いは[強制終了]の場合は起動元のプログラム(DocStartCS)にカウントが0(ゼロ)になったことを疑似的に伝えます。

DocStartCS では[キャンセル]が押されたか[強制終了]が押されたかの区別はつきませんが、以後の処理は同じになっています。DocStarterCS では動作の違いはありません。

#### 起動書式

>> /mini または /m

最小化のウィンドウ状態で起動します。

>> 秒数カウント

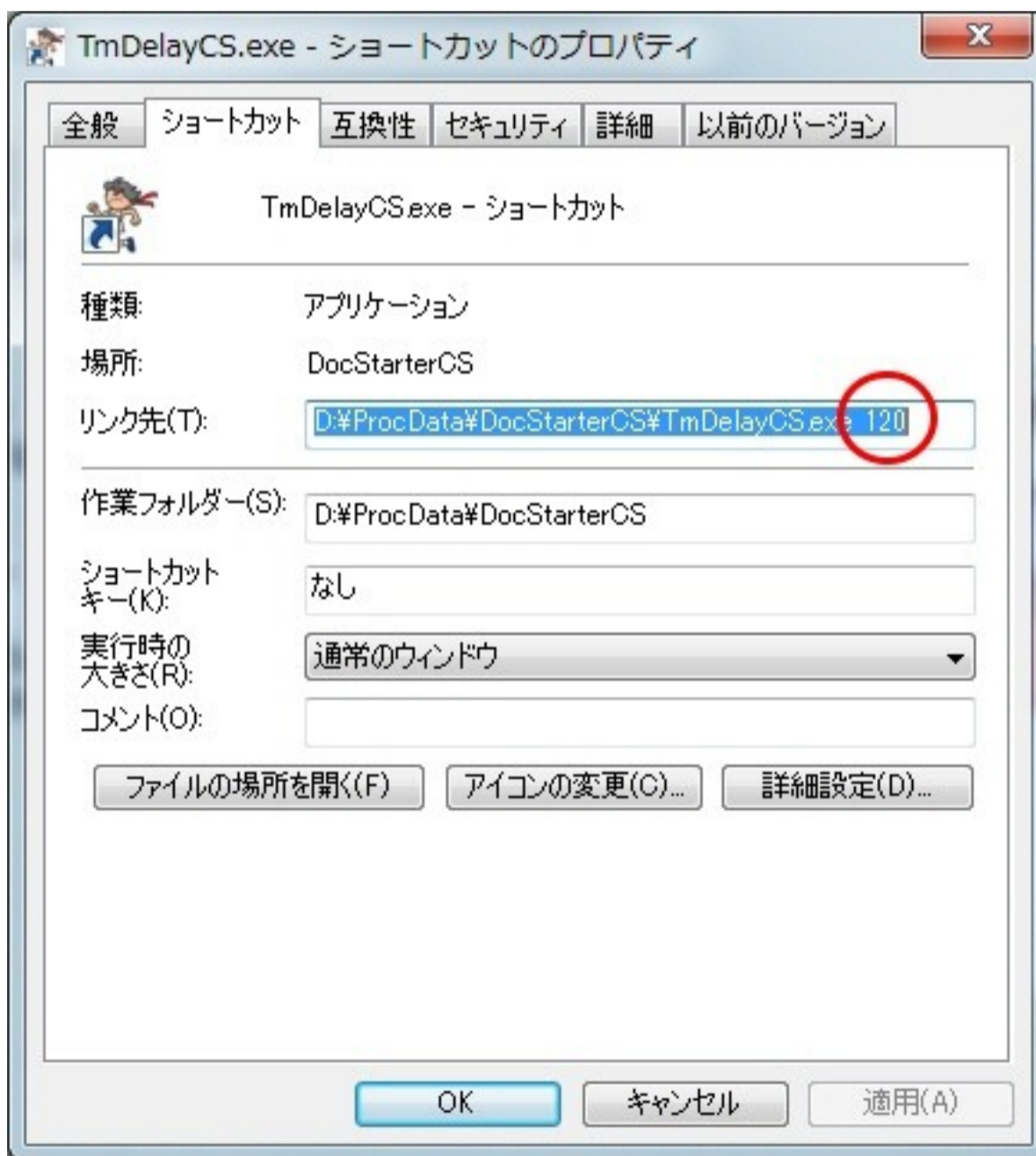
例

TmDelayCS.exe 20 /mini  
カウント数 20(秒)。最小化のウィンドウで起動する

TmDelayCS.exe 120  
カウント数 120(秒)。通常のウィンドウで起動する

ショートカットの例

カウント数 120(秒)の例。



TmDelayCS.exe のショートカットを作成した後、それをプロパティ画面で開き、上図のように 120 を追加した例です。

#### DocStarterCS での設定例

DocStarterCS の指定ドキュメントの間に以下のような TmDelayCS を設定すれば 20秒の間隔をおいでドキュメントが起動されます。ドキュメント起動プログラムの常駐プログラム、非常駐プログラムのいかににかかわらずディレイは行われます。

ドキュメントアイテムの追加・編集

実行許可フラグ  [チェック有り]実行の対象にする / [無し]登録のみ

登録名 TmDelayCS

登録コメント

ドキュメントパス名 (%1) D:\ProcData\DocStarterCS\TmDelayCS.exe

遅延時間(1/10秒) 0 窓種 通常画面

待機フラグ  [チェック有り]次行の起動処理は該当行のアプリ終了まで待つ / [無し]待たない

作業フォルダパス名

お試し専用スイッチ 20

ツール使用フラグ  [チェック有り]指定のツールで開く / [無し]ウィンドウズ標準で開く

ツール名 TmDelayCS

ツールパス名 D:\ProcData\DocStarterCS\TmDelayCS.exe

関連パス名 (%2)

ツールスイッチ 20

OK Cancel

開く ファイル参照

フォルダ参照

開く 作業フォルダ参照

ツールスイッチから複写

お試し起動

ツールパス・リスト編集

開く ツール参照

開く 関連ファイル参照

関連パス・リスト編集 関連フォルダ参照

ツールパス名欄には実際にインストールされている TmDelayCS.exe を指定します。  
例は D:\ProcData\DocStarterCS にインストールされているときのもので。

カウントはツールスイッチ欄で指定します。指定は 20(秒)の例  
お試し専用スイッチにも 20(秒)と指定されていますので[お試し起動]ボタンを押すと 20(秒)の  
カウントを持って TmDelayCS が起動されるはず。

